２．歴史的建造物に関する計画

（１）旧島松駅逓所保存修理計画

旧島松駅逓所は耐震診断の結果より、十分な耐震性を確保していないことが確認された。建物の倒壊防止や観覧者の安全を確保するため、今後詳細設計を行った上で耐震補強工事を実施する。

また、経年劣化による土台や屋根、外壁の老朽化が見られることから、緊急を要する部分については補修を行い、その他の破損部分については耐震補強工事と合わせて行うこととする。

防火・防災・防犯対策としては、屋外の対策が不十分であることから、監視カメラや炎感知器等の設置を検討し、整備を行うこととする。

３．公開・活用及びそのための施設に関する計画

（１）展示のコンセプト

史跡の重層する歴史的価値について、史跡周辺や史跡全体、及び駅逓所の建物などの実物と展示物を組み合わせて、観覧者の理解を深める空間展示とする。

～実物と展示を組み合わせて理解を深める空間展示～
①史跡周辺を見て知り学ぶ
②史跡全体を見て知り学ぶ
③島松駅逓所の建物を見て知り学ぶ
④展示物を見て知り学ぶ

（２）展示の構成

史跡周辺を見て知り学ぶ	１）島松地区と島松駅逓所が置かれた背景 ・ 古くから交通の要衝であった島松地区の歴史 ・ 駅逓制度の歴史や島松駅逓所が置かれた背景（札幌本道、恵庭側にあった島松駅逓所）
史跡全体を見て知り学ぶ	２）駅逓所時代とその後の変遷 ・ 島松駅逓所の変遷（明治 6 年～16 年、明治 17 年～30 年に設置された要素） ・ 駅逓所業務が終わってからの変遷（明治 31 年以降に設置された要素）
建物を見て知り学ぶ	３）建物の構造などから見る島松駅逓所建物の変遷 ・ 農家建築から一部行在所、駅逓所を経て姿を変えていった旧島松駅逓所 ・ 建物の構造などからそれらの特徴がしっかりと見て取れるよう、建物を見せる展示とする。
展示物を見て知り学ぶ	４）史跡の要素から見る島松駅逓所の変遷 ・ 農家建築から一部行在所、駅逓所と姿を変えた建物の変遷 ・ 地場建材の「島松軟石」と史跡（建物や碑に使われた軟石） ・ 駅逓所となる前に中山家に訪れた Ｗ・Ｓ・クラークや明治天皇について ・ 地域の方々の心のよりどころとなった行在所神社 ５）島松地区と島松駅逓所が置かれた背景 ・ 駅逓制度の内容、変遷 ・ 島松の歴史、地形的な特徴 ・ 北海道の各駅逓所や島松駅逓所が置かれた背景（札幌本道、恵庭側にあった駅逓所、他駅逓所との位置関係） ６）中山久蔵の生活や交流から見る人物像と農業の事績 ・ 久蔵の経歴（出身地や島松へたどり着くまでの生い立ち） ・ 久蔵と人々との交流（松本十郎、片岡利和、松林哲五郎、酒匂常明など） ・ 久蔵の人物像が見られるエピソード ・ 久蔵が取組んだ米作りと現代に続く米作りの精神

（３）駅逓所建物内の展示

１）説明を添える建築的価値

① 中廊下型が多い駅逓所の間取りにあって、座敷（客室）外周部に廊下を配する駅逓所としては、希少な遺構である。

② 明治 14年に上手の10畳二間の増築と中手東側の8畳と6畳間の改築が行われたことから、２本の柱が並ぶ。

③ 屋根裏に明治 14年以前の小屋組みが遺り、建物の後設や改築の痕跡が残されている（通常は観覧不可）。

④ 明治の近代化が進む建造物にあって、明治以前（江戸期）の伝統的建具の仕様である「明り障子付板戸」が用いられている。

⑤ 南側と西側（道路側）に配する土間部（ニワ）板戸を冬期以外は取り外し、屋外庭園との一体感を成すため、「土縁」が用いられている。明治期の農家建築である旧中山久蔵宅に土縁が用いられているのは、漁家・商家建築を除き希少な遺構である。

写真4-3-1
座敷外周部の廊下

写真4-3-2
増改築による２本の柱

写真4-3-3
明り障子付板戸

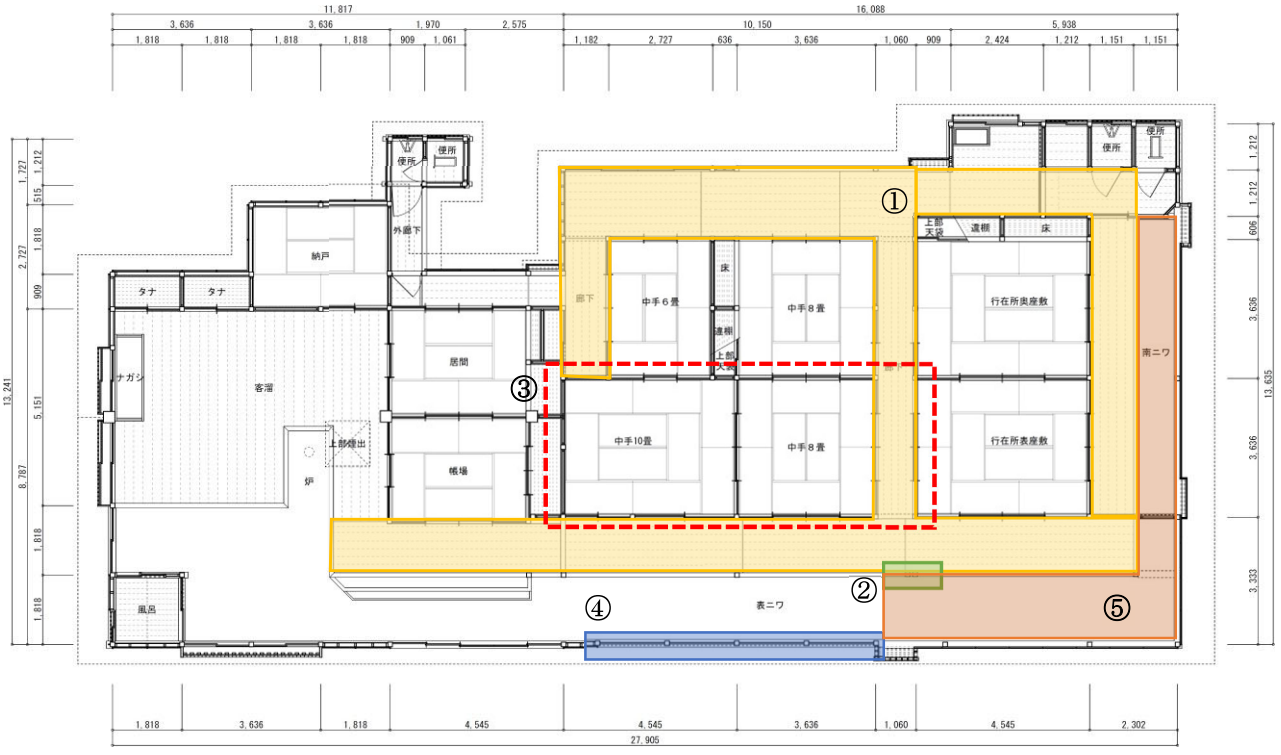


図 4-3-1 説明を添える建築的価値の位置図

2）ゾーニングと展示動線及び展示内容

駅逓所建物に訪れた観覧者が、史跡の重層する歴史的価値に対して理解を深められるよう、建物内の展示のゾーニングと動線及び展示内容は以下のものを想定する。また、現在展示している展示物は以下の展示内容を基に展示物や展示点数を精査し、展示ケースや照明の更新、デジタル技術を活用した展示方法を導入するなど、観覧者が見やすく理解しやすい展示とする。

表 4-3-1　ゾーニングと展示動線概要

	名称	主な展示内容
	導入エリア	・農家建築から一部行在所、駅逓所と姿を変えた建物の変遷の紹介。 ・駅逓所となる前に中山家に訪れた W･S･クラークや明治天皇について。 ・地場建材（島松軟石）と史跡の紹介（建物と石碑等）。 ・建物内の展示内容の紹介。
	中山久蔵展示エリア	・中山久蔵の経歴（出身地や島松へたどり着くまでの生い立ちなど）や久蔵が取組んだ米作りと現代に続く米作りの精神（賞状など含む）の紹介。 ・久蔵と人々との交流（黒田清隆、松本十郎など）久蔵の人物像が見られるエピソードの紹介。
	駅逓所展示エリア	・駅逓制度の内容、変遷の紹介。 ・北海道の各駅逓所、その中での旧島松駅逓所の役目（恵庭側にあった駅逓所など）、札幌本道の紹介。 ・天井板を外し、実物と説明板による島松駅逓所建築当初の小屋裏の紹介。 ・宿場としての再現について要検討。 ・建物材の柾や、継ぎ手などは置き場所要検討。
	行在所展示エリア	・明治天皇の行在所となったことの紹介。 ・期間限定などで行在所神社の社や賽銭箱の設置による行在所神社の歴史の紹介。

※建物内のバリアフリールートについては、地上レベルのエリアを想定し、それ以外の段差等で車いす等の動線を確保することが難しいエリアについては、パンフレット等の資料の充実や、ガイドの補助などによるソフト面での対応を検討する。

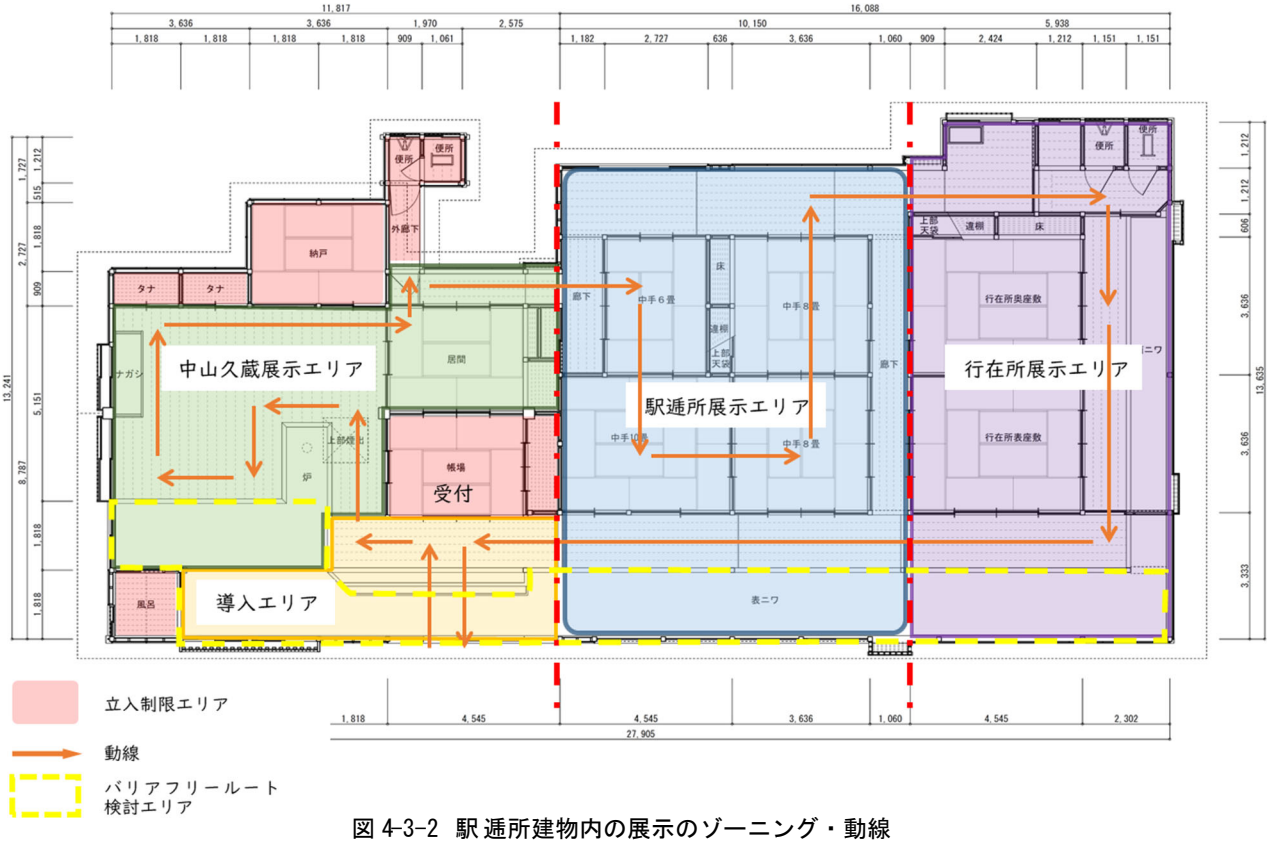


図 4-3-2　駅逓所建物内の展示のゾーニング・動線

５章　旧島松駅逓所主屋基本設計

１．建物概要

（１） 建物規模等

① 延べ床面積　332.759㎡（屋根面積　447.664㎡）

② 軒高　2.640m、最高の高さ　5.380m

③ 木造　在来工法　平屋建て

④ 基礎　鉄筋コンクリートべた基礎（基礎天端　自然山石）

⑤ 主な仕上概要

屋　根　垂木、野地板の上、柾葺（サワラ材　長さ30cm、厚さ約5mm、葺足平均4.5cm）

外　壁　下見板張り胴縁押え、一部　竪板張り目板押え

天　井　野地板表し、板張り竿縁天井

内　壁　板張り（突付け）、壁紙貼り

床　　板張り、畳敷き

写真5-1-1　南西側外観

写真5-1-2 表ニワ

写真5-1-3 行在所表座敷

（２） 建物の構造的特徴

本建物は図5-1-1に示すように、構造的には大きく３つのゾーンに分かれており、中央の中手座敷部（明治13年(1880)以前建築）の南側に上手行在所部を増築し、昭和59年(1984)～平成元年(1989)に下手ダイドコロ部を当初の姿に復原している。但し、昭和59年(1984)からの根本修理時に基礎は、全体を鉄筋コンクリート造（以降、ＲＣ造）のべた基礎に改修し、床組（土台、大引、床板）は、後補材に交換されている。

３つのゾーンの接続部においては、主要な横架材（桁・梁）は強固には連結されておらず、復原部分も含めて、柱と横架材の接合部に補強金物は使用されていない。また、根本修理の際、多くの柱で根継ぎが行われ、継手部分は木材の嵌合のみであり補強金物は使用されていない。

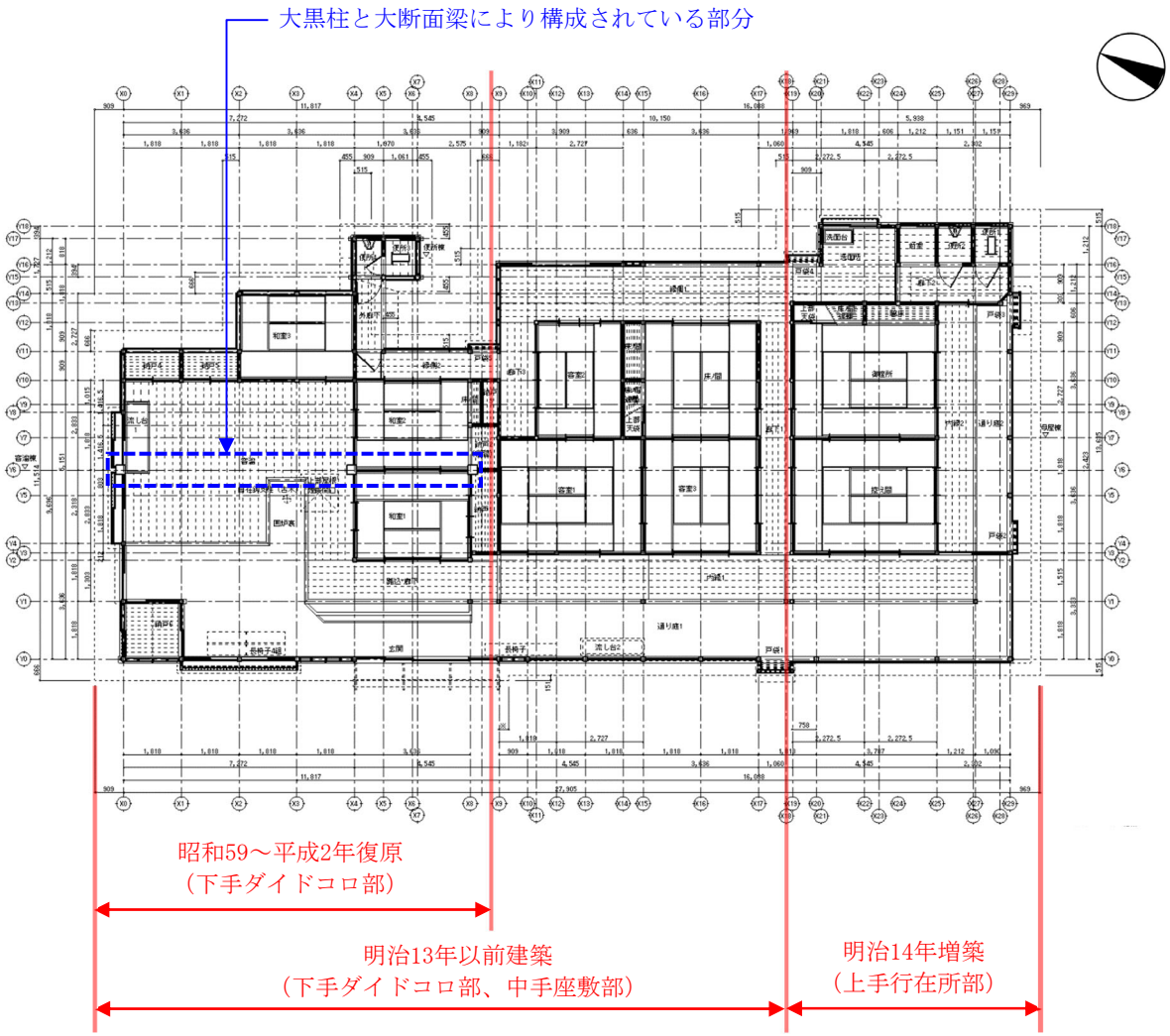


図 5-1-1　平面図

２．耐震補強・保存修理基本設計

史跡旧島松駅逓所の主屋は、耐震診断の結果より十分な耐震性を確保していないことが確認された。建物の倒壊防止や観覧者の安全性を確保するため、『史跡旧島松駅逓所保存活用計画』及び『史跡旧島松駅逓所整備基本計画』において耐震補強工事を実施する計画としている。本基本設計では、耐震診断における補強案を基に耐震補強方法を計画する。

（１） 耐震補強基本設計

１）設計方針

① 意匠性を考慮し、既存壁を構造的に補強し、必要な耐震性能を確保する。
② 水平面の剛性を確保するための補強を行う。
③ 構造的には、大きく3つのゾーンに分かれているが、構造的に一体化を図る。

２）設計内容

① 既存壁の補強については、既存の壁仕上を取外し、壁内部に構造用合板を新設し耐震補強を行う。補強位置については、構造計算により求められた位置とする。
② 水平剛性を高めるため、屋根材の更新に合わせ屋根面に構造用合板を新設し、意匠に影響のない耐震補強を行う。
③ 屋根葺き替え材料については、道産柾材の利用を含めコストや耐候性等について引き続き検討を行う。また、井戸屋形の屋根も腐朽が著しいため、主屋の葺き替えに合わせ修理する。
④ 天井仕上がある部分については、小屋裏にて水平ブレースを設置する。
⑤ 構造的な一体化については、小屋裏部分で金物等を用い各部材を緊結する補強とする。

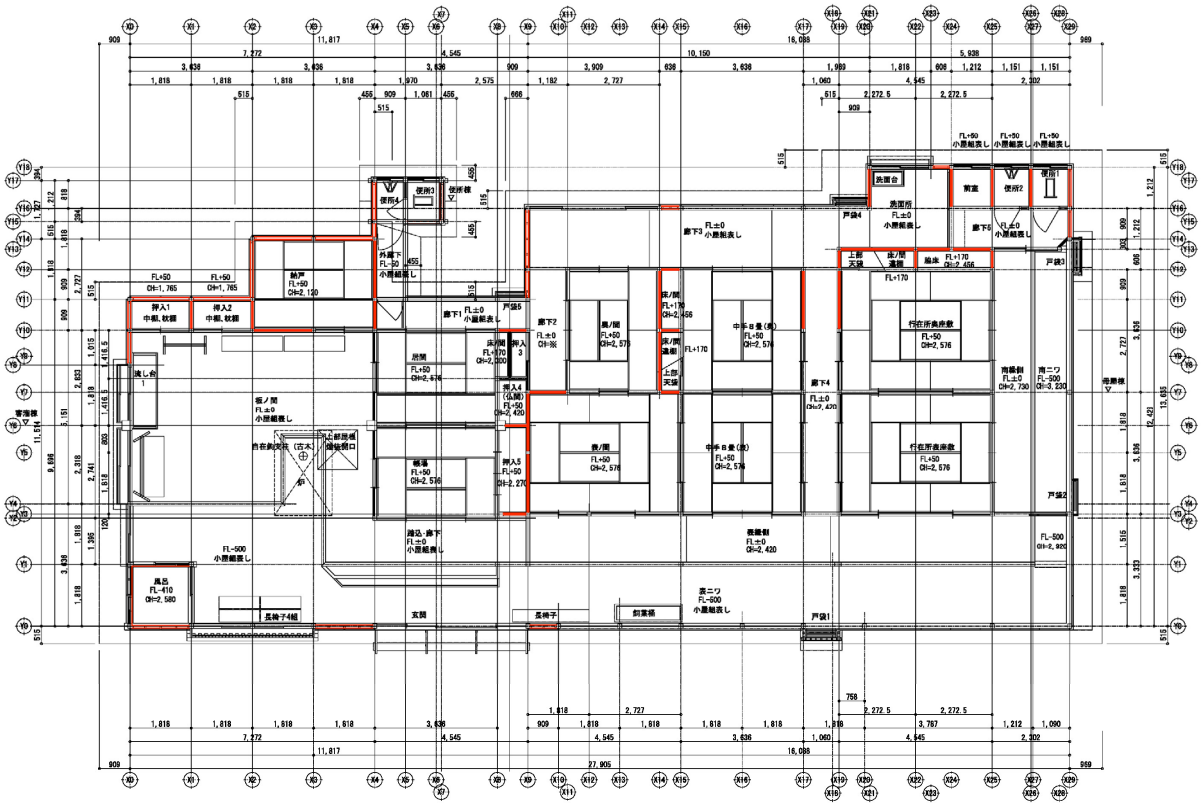


図 5-2-1　補強位置図

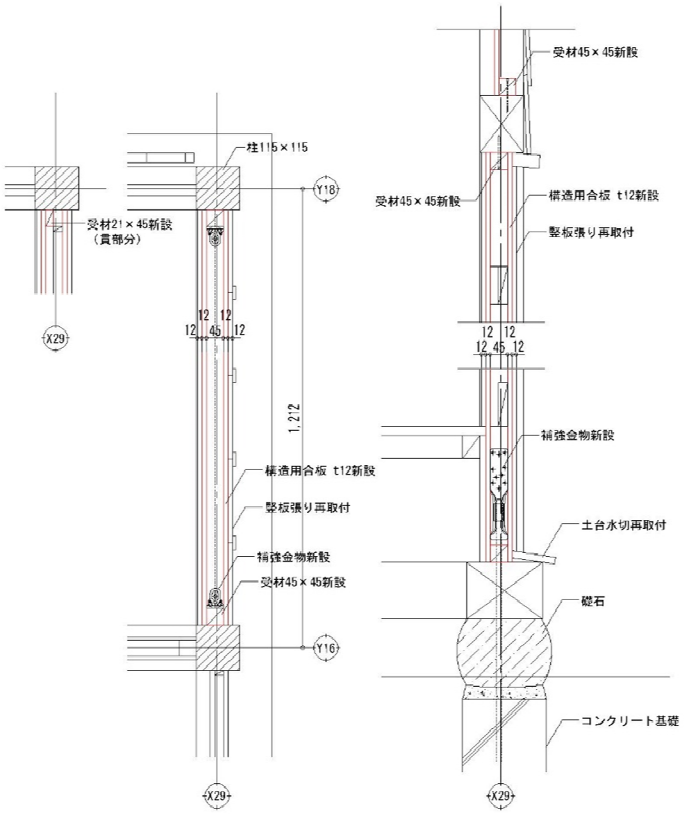


図 5-2-2　壁補強詳細図１

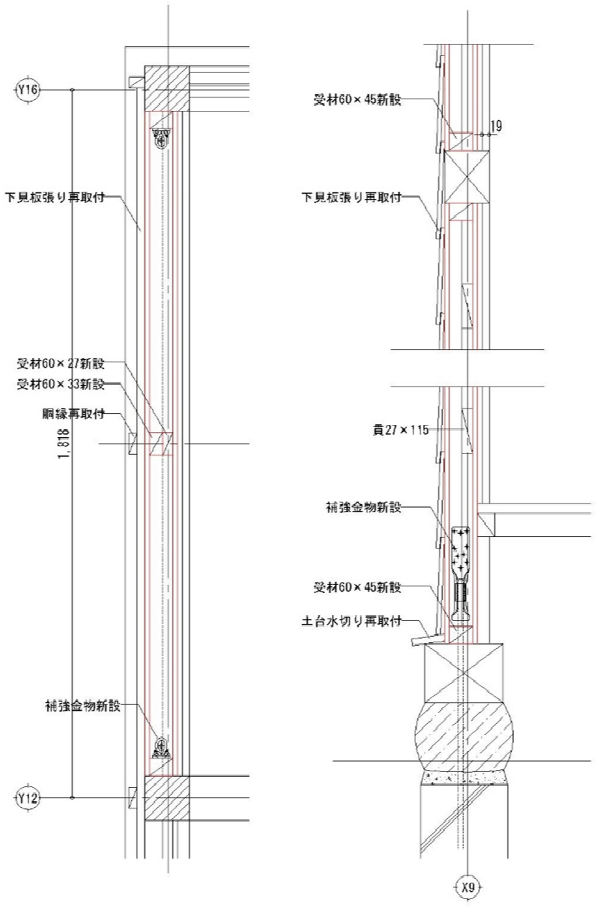


図 5-2-3　壁補強詳細図２

（２） 保存修理基本設計

１）設計方針

① 屋根材は葺き替え時期が迫っていることから、耐震補強工事に伴い葺き替えを行う。

② 土台等で腐朽が見られる部分を新補材（しんぽざい）に取替える。

③ 外部建具は、調整を行う。

④ 小屋裏部材について、劣化が著しい部分のみ新補材に取替える。

２）設計内容

① 屋根材の柾葺きは、葺き替えから30年以上経過しており、葺き替え時期が迫っていることから耐震補強工事と同時に屋根の葺き替え工事を行う。また、煙出し屋根、井戸屋形の屋根も腐朽が著しいことから、葺き替え工事を行う。

② 土台、水切りについては、部分的に腐朽が見られることから、腐朽部分のみ取り除き、新補材に取替える。

③ 外部建具は、開閉に支障のある部分は調整を行う。

④ 小屋裏の構造部材について、劣化部分は新補材に取替える。一部取替えが難しい部分については、新補材での補強や金物で接合部の補強を行う。

⑤ 現状では、柱や壁の下地材について腐朽は認められないが、今後の実施設計や施工時において腐朽等が確認された材料については、新補材に取り替える。

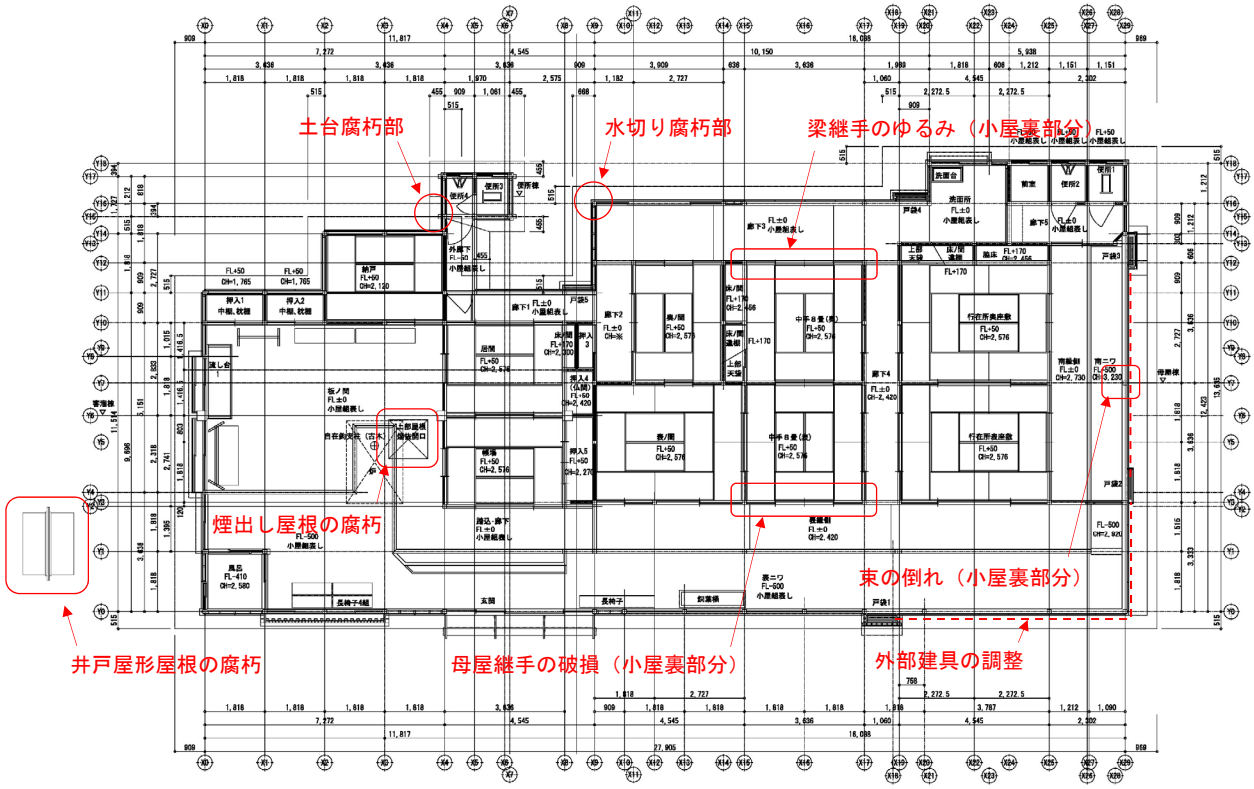


図 5-2-4　保存修理平面図

写真 5-2-1　屋根全景

写真 5-2-2　屋根破損部

写真 5-2-3　煙出し屋根

写真 5-2-4　土台腐朽部

写真 5-2-5　水切り腐朽部

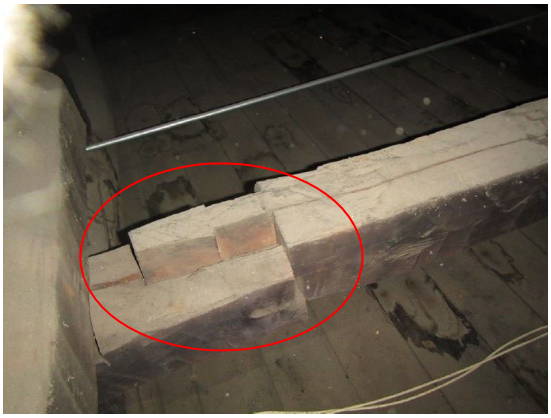


写真 5-2-6　梁継手のゆるみ

写真 5-2-7　母屋継手の破損

写真 5-2-8　束の倒れ

３．電気設備基本設計

主屋の電気設備等は平成3年の根本修理の際に設置されたものであり、設置後20年以上経過していることから、老朽化が見られる機器については、自動火災報知設備の更新を図る。また、整備基本計画により、屋外の防火等の対策を行う。

（１） 電気設備基本設計

１）設計方針

① 自動火災報知設備については、屋内の感知器を炎感知器へ取替える。
② 照明設備については、展示計画に合わせ機器の更新や取付位置の見直しを行う。
③ 屋外の防火・防災・防犯対策について整備を行う。
④ 設備器具等の設置については、意匠性に配慮した計画とする。

２）設計内容

① 自動火災報知設備は感知器の更新を行う。
② 照明設備は意匠性を考慮し、展示ケースや展示パネルと一体となった照明器具とする。
③ 屋外には、炎感知器を設置する。設置位置については外観の意匠に配慮し、主屋から極力離れた位置に設置する。また、全面道路側には設置しない計画とする。
④ エントランスと管理エリアから離れている行在所には、防犯カメラを設置する。

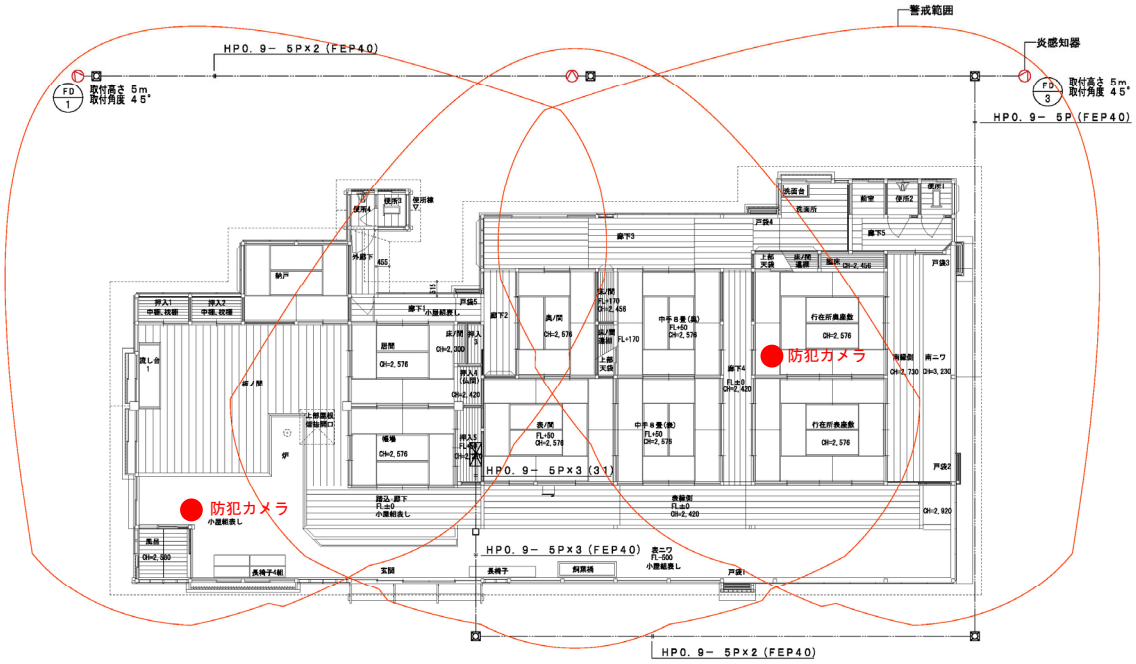


図 5-3-1 自動火災報知設備図

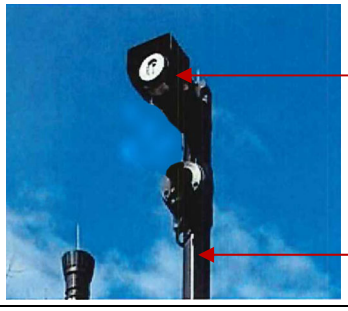
炎感知器本体	炎感知器　設置例
	

図 5-3-2 自動火災報知設備機器イメージ図

４．展示・サイン基本設計

整備基本計画における「５章　整備基本計画」に基づき設計方針、設計内容を下記の通り整理する。

（１） 展示基本設計

１） 展示設計方針

① 整備基本計画に示された展示のコンセプトである「実物と展示を組み合わせて理解を深める空間展示」とする。

② 整備基本計画に示されたゾーニングごとに展示内容を見直し、デジタル技術を活用した展示を計画する。

③ 主屋については、建物の構造などから見る島松駅逓所建物の変遷について、理解を深める展示とする。

④ 主屋内に設置されている展示ケース等については、観覧者の安全に配慮し地震の際に転倒しないよう展示方法等の見直しを行う。

２）展示設計内容

① 実物展示については、展示点数を厳選し高さの低い展示ケースに収納する。展示ケースについては展示替えを考慮し、カバーの開閉が容易な展示ケースとする。

② 史跡概要説明等に設置する映像設備については、観覧者が容易に操作できるようタッチパネル式のディスプレイを採用する。また、内容について多言語化表示に対応した内容とする。

③ 一部の資料を電子化し閲覧可能なシステムを導入する。また、二次元バーコードを用い展示物の解説をスマートフォン等で確認出来るようWi-Fi機器を整備する。（無料のスマートフォン用アプリケーションソフト等を利用）

④ 照明設備については、展示設備の見直しに伴い機器の更新や取付位置の見直しを行う。

⑤ バリアフリー対応として可動式のスロープを検討する。

3）展示エリアと展示内容

主屋を５つのエリアに分け、エリア毎に展示内容を設定し、観覧者に史跡の本質的な価値が伝わるよう展示内容を計画する。以下の図5-4-1　展示計画平面図に設定したエリアと設置する展示の概要を示す。

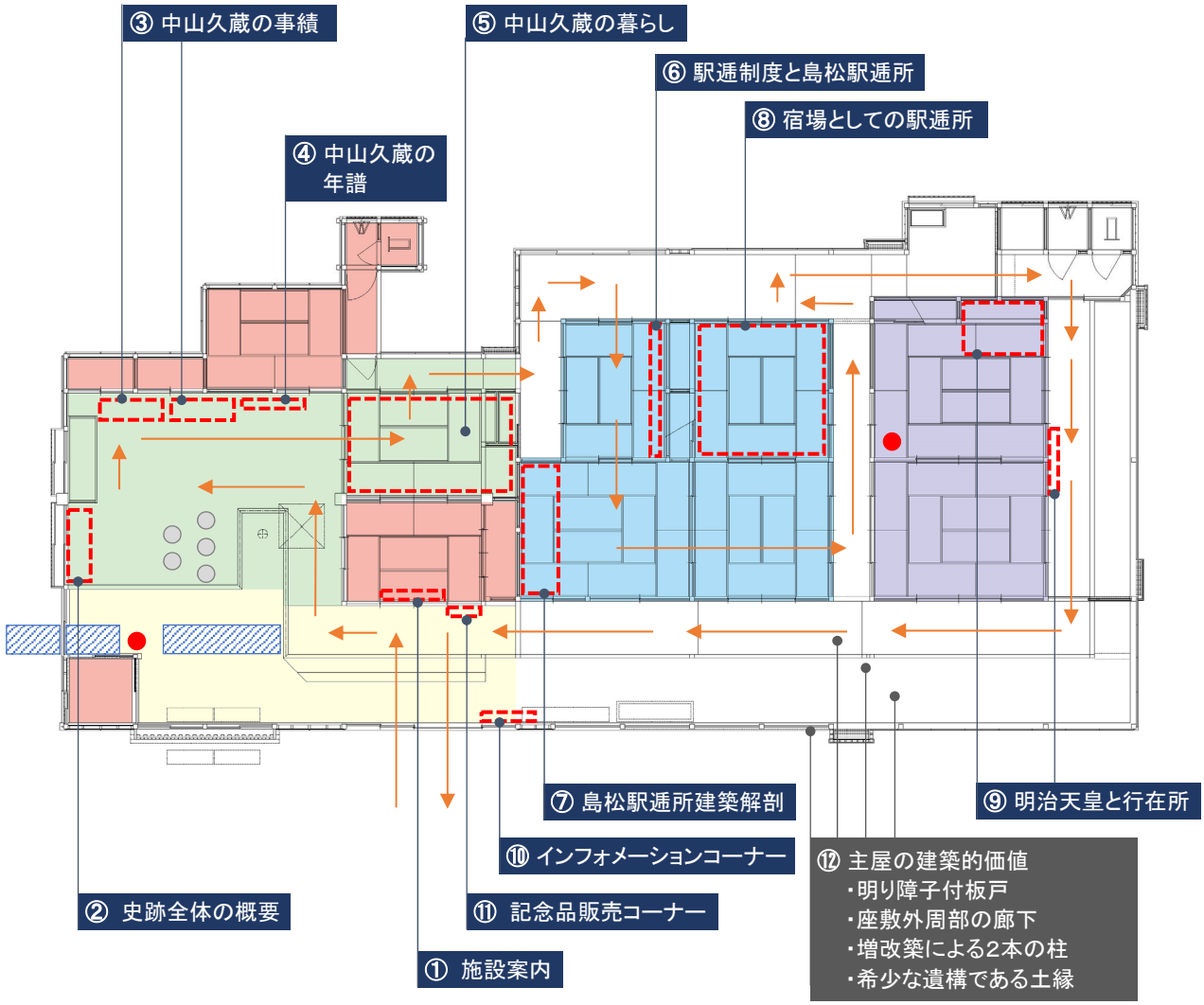


図5-4-1　展示計画平面図

① 施設案内（導入エリア）

【主な展示内容】

- 外部空間を含めた史跡全体の施設／展示案内平面図を表示する。
- 施設の概要（入館料や施設の開館時間など）を表示する。
- 注意事項を表示する。

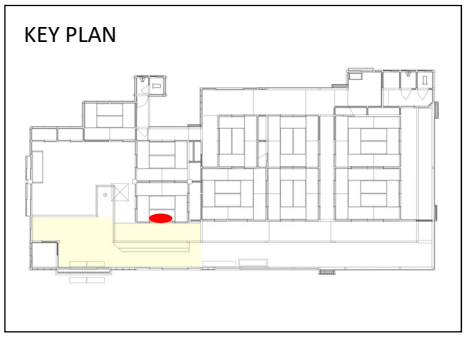


図5-4-2　①位置図

【展示の手法】

- グラフィックパネル展示（上下支持）とする。

【主な展示内容】

- 外部空間を含めた史跡全体の施設／展示案内平面図を表示する。
- 施設の概要（入館料や施設の開館時間など）を表示する。
- 注意事項（避難誘導経路）等を表示する。

【展示イメージ】

- 史跡全体図、主屋平面図、開館時間・注意事項等をパネルで紹介する。
- 観覧者の安全に配慮し、パネルを固定する受付カウンターも新設する。

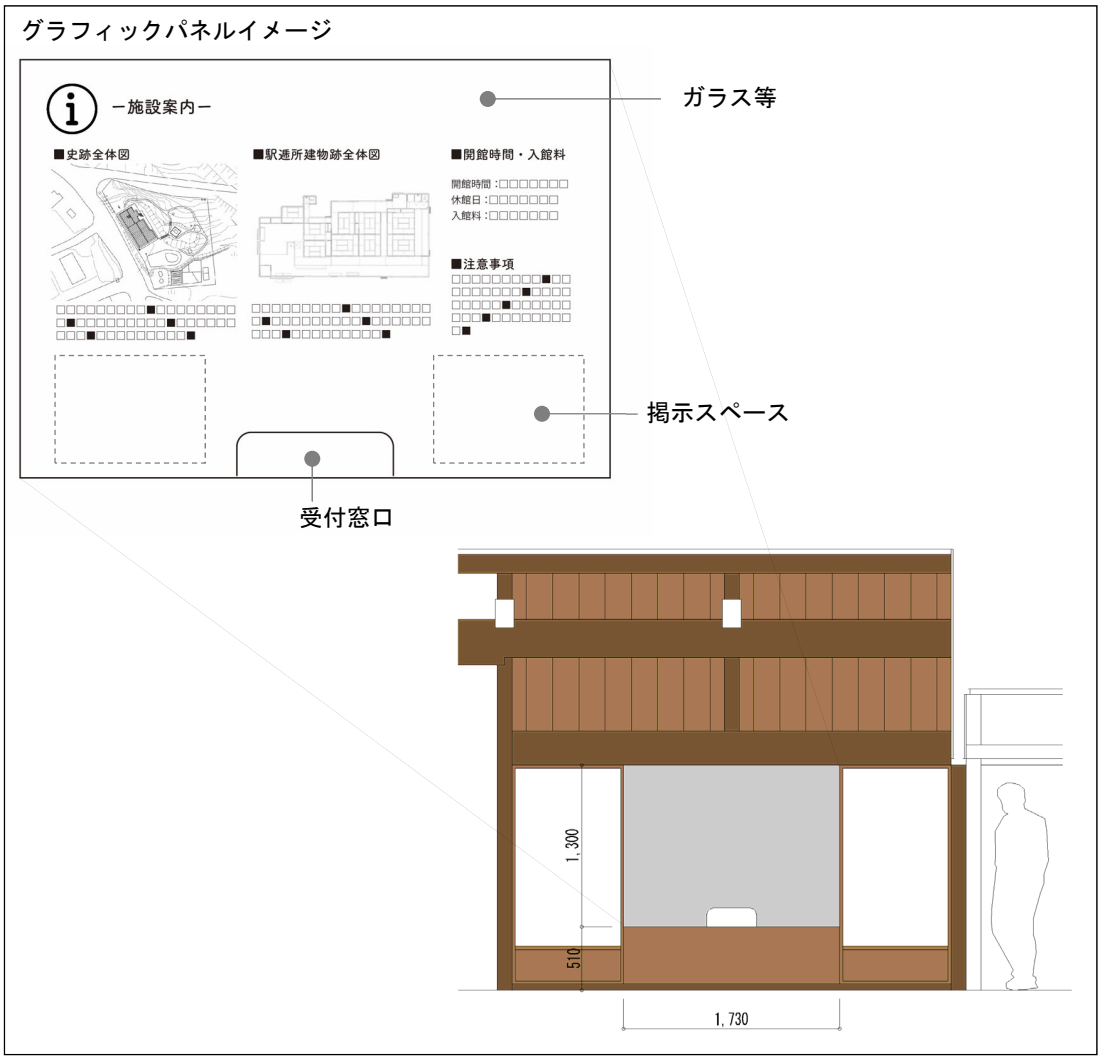


図5-4-3　展示イメージ

② 史跡全体の概要（中山久蔵展示エリア）

【主な展示内容】

- 幾重にも重なる歴史が見られる史跡の変遷を展示する。（明治4年(1871)から史跡指定(昭和59年(1984))までの出来事や建物の変遷を時系列で紹介）
- 史跡全体の概要（外部の石碑や蓮池・見本田等を含む）の解説を行う。
- 中山久蔵の生涯について展示する。

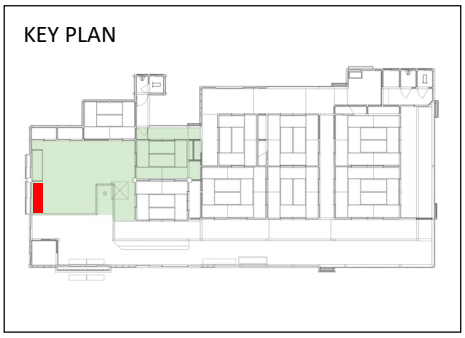


図 5-4-4　②位置図

【展示の手法】

- 史跡及び周辺の解説や史跡の変遷をタッチパネル式大型モニターの映像で表現する。
- 来館者が映像を選択し投影（チャプター形式）する。
- 外国語に対応した映像、音声を選択する。
- モニター前にスツールを用意し、来館者が座って映像を観覧する。スツールは、軟石や木造の仕口等を用いて製作することを検討する。

写真 5-4-1
観覧者が着席して映像を見るイメージ（新ひだか町博物館）

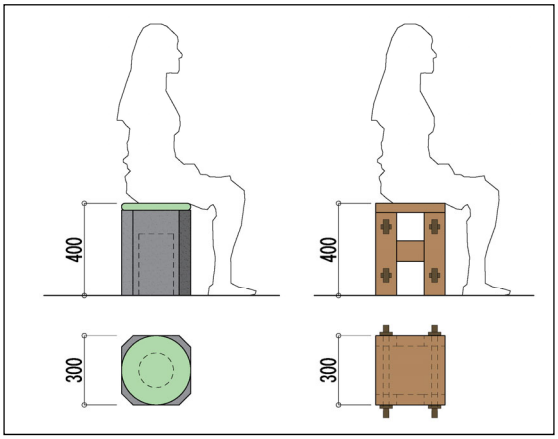


図 5-4-5
軟石や木造の仕口を用いたスツールのイメージ図

【映像イメージ】

- 幾重にも重なる歴史が見られる史跡の変遷

  明治4年(1871)から明治16年(1883)まで、明治17年(1884)～明治30年(1897)まで、明治31年(1898)以降と年代を区分し、史跡に関連するできごとを解説する。

- 史跡の変遷や史跡全体の概要

  駅逓所建物、石碑、蓮池、見本田など史跡内の諸要素と史跡周辺の諸要素を、写真や平面図、地図などを使用して紹介する。

写真 5-4-2
現在の展示状況
（史跡内の諸要素等の配置図）

③ 中山久蔵の事績（中山久蔵展示エリア）

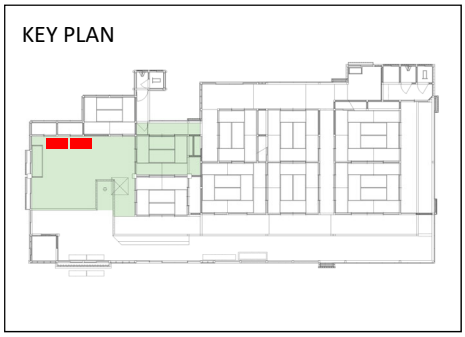


図5-4-6　③位置図

【主な展示内容】

- 中山久蔵の人柄を垣間見ることができる、開拓使関係者や旅行家、篤農家など中山久蔵が交流した様々な人々とのエピソードなどを紹介する。
- 中山久蔵の功績等を幅広く紹介する展示を行う。
- 米などの作物生産に関する中山久蔵の受賞歴を展示する。

【展示の手法】

- 実物資料展示等（解説パネル併設）とする。
- 劣化等により実物資料の展示が難しい場合は、レプリカや写真等の展示とする。

【展示イメージ】

- 松本十郎（まつもとじゅうろう）に関する展示

  開拓使大判官。開拓にあたって交流が始まり、松本十郎から中山久蔵に送られた祝辞や、事績録などを展示する。

- 片岡利和（かたおかとしかず）に関する展示

  明治天皇の命により、明治21年(1888)から北海道視察を度々行った侍従。明治天皇巡行後の明治24年(1891)に利和が北海道巡回の折、明治天皇からの御土産物を届けてから深まった交流などについて解説パネル等で紹介する。

- 松林哲五郎（まつばやしてつごろう）に関する展示

  旅行記「北海紀行」の著者。北海紀行に書かれた当時の島松地域の様子や、中山久蔵とのエピソードを著書や解説パネル等で紹介する。

- 酒匂常明（さこうつねあき）に関する展示

  北海道財務長官。中山久蔵の稲作に対する取組から可能性や実現性を感じ、道内各地で稲作を奨励して回ったことなどを解説パネル等で紹介する。

- 船津伝次平（ふなつでんじべい）に関する展示

  篤農家。中山久蔵とのやり取りが伺える「北海道農事問答」を紹介する。

- 道内各地で中山久蔵が行った赤毛の種籾配布や米作指導を解説パネル等で紹介する。
- 中山久蔵の取り組んだ農作物づくりや赤毛に関する展示を行う。
- 受賞歴を示す賞状等は、歴史的に貴重なものなど数点を実物展示するが、著しい劣化等による場合、複製や写真等で紹介する。（その他の賞状等はデジタル化し二次元バーコードを活用し観覧者が閲覧可能な設備を導入する。）

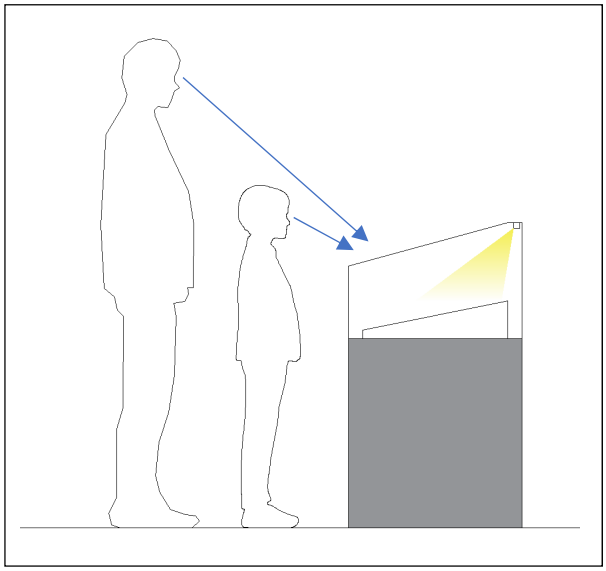


図 5-4-7
展示ケース・展示パネルの位置関係

写真5-4-3
展示ケースの参考例

写真5-4-4
現在の展示状況（赤毛の米等）

写真5-4-5
現在の展示状況（写真パネル：神饌田の様子）

④ 中山久蔵の年譜（中山久蔵展示エリア）

【主な展示内容】

- 中山久蔵の年譜を展示する。
- 旧島松駅逓所の変遷（初代取扱人や増改築の年など）について展示する。

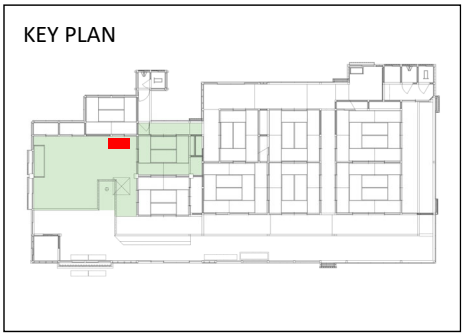


図5-4-8　④位置図

【展示の手法】

- グラフィックパネル展示（吊下げ式※）とする。

※ 長押（なげし）等にＳ字状のフックを取付け、ワイヤー等で吊り下げる方式。
ビス等で壁や木部を傷めない展示方法とする。

【展示イメージ】

- 中山久蔵の年譜と合わせて旧島松駅逓所の変遷についても、図や写真を用いて併記したパネル等を展示する。

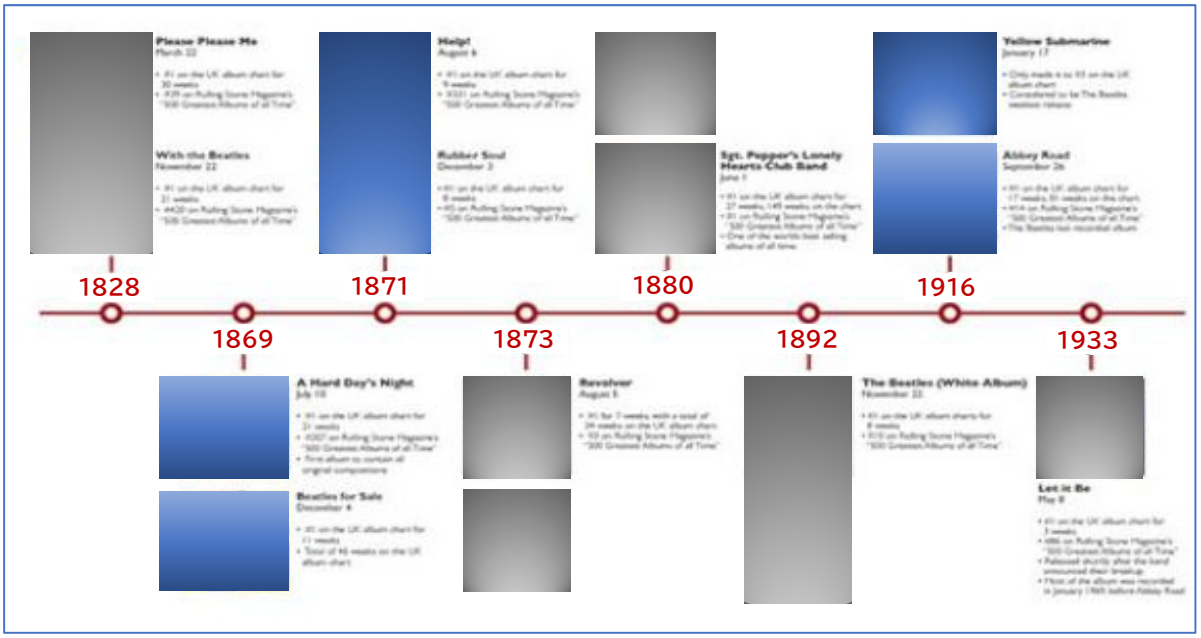


図 5-4-9
グラフィックパネルイメージ：主要な出来事のみで構成した年譜

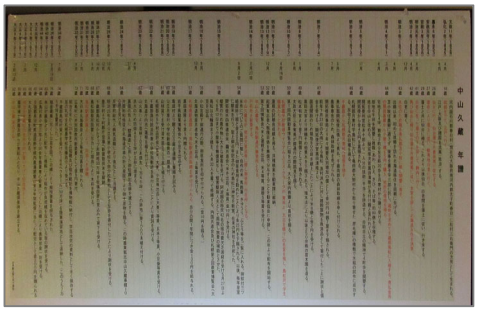


写真5-4-6
現在の展示状況（中山久蔵の年譜）

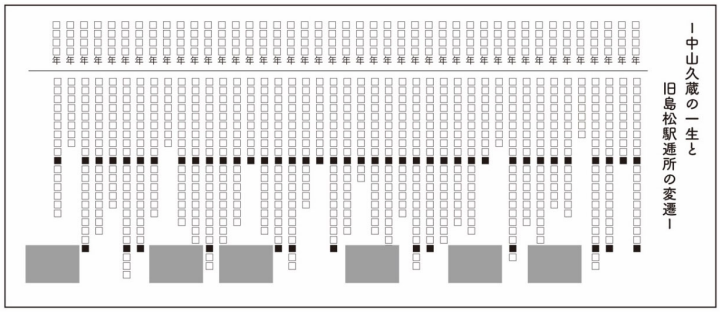


図5-4-10
詳細な年譜イメージ（パンフレット等で配布）

⑤ 中山久蔵の暮らし（中山久蔵展示エリア）

【主な展示内容】

- 当時の生活が分かる展示（中山久蔵が生活していた部屋と伝えられている。）を行う。

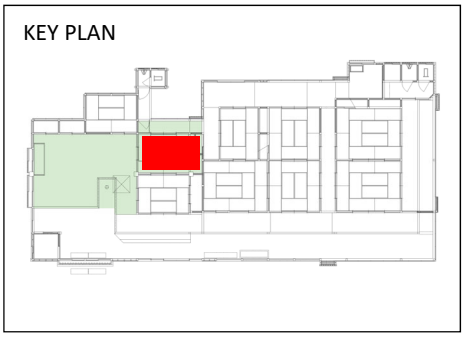


図5-4-11　⑤位置図

【展示の手法】

- 実物資料展示等（解説パネルを併設）とする。
- 明治期の生活が分かるような展示とする。

【展示イメージ】

- 中山久蔵の生活していた部屋自体を展示とする。当時の生活がイメージできるよう展示方法を工夫する。

写真5-4-7
現在の展示状況（床の間部分）

写真5-4-8
現在の展示状況（帳場側の様子）

写真5-4-9
現在の展示状況（板の間側の様子）

写真5-4-10
現在の展示状況（廊下側の様子）

⑥ 駅逓制度と島松駅逓所（駅逓所展示エリア）

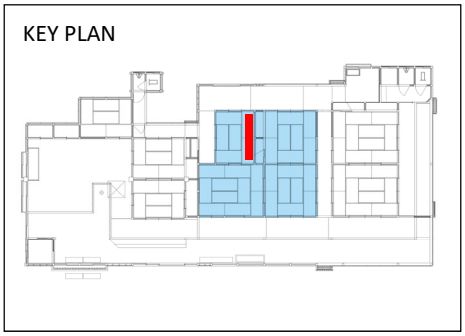


図5-4-12　⑥位置図

【主な展示内容】

- 多くの人が行き交った島松地区について展示する。
- 北海道特有の駅逓制度と島松駅逓所について展示する。

【展示の手法】

- モニターによる映像展示と音声ガイドとする。
- 外国語に対応した映像、音声を選択する。
- タッチパネル式モニターとし、観覧者の操作によって、
  映像を選ぶ仕組みとする。（島松地区や駅逓制度、島松駅逓所の役割などから選択）
- 上映終了後、写真などスライドショーで画面表示する。

【映像イメージ】

- 多くの人が行き交った島松地区
  島松という場所が、多くの人々が行き交った場所であることを札幌本道から紹介する。明治天皇の巡幸ルートについても解説する。
- 北海道特有の駅逓制度
  駅逓制度の目的や当時の状況、道内各地に存在した駅逓所、駅逓制度の発展と衰退を紹介する。
- 島松駅逓所の役割
  島松地区にある背景や、島松駅逓所の始まり（恵庭側の駅逓所）、札幌本道との関係、島松駅逓所における歴代の駅逓取扱人を紹介する。

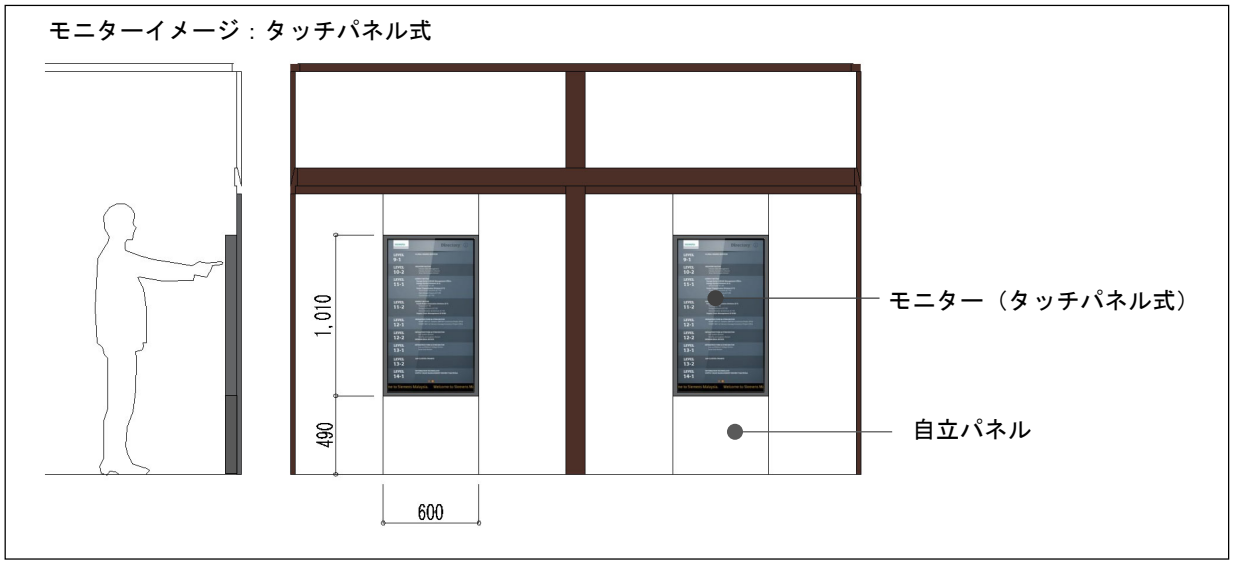


図5-4-13　展示イメージ

⑦ 島松駅逓所建築解剖（駅逓所展示エリア）

【主な展示内容】

- 主屋の変遷について展示する。
- 主屋の建築的価値や柾材・継手などの建築材料や建築技術について展示する。
- 耐震補強の内容や工事の施工状況について展示する。

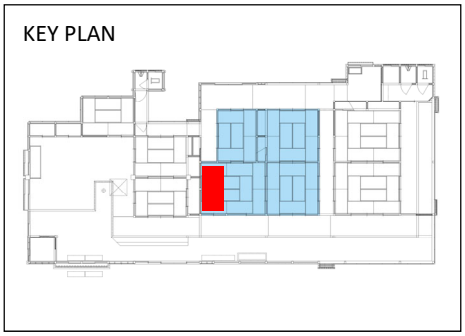


図5-4-14　⑦位置図

【展示の手法】

- グラフィックパネル展示（吊下げ式）とする。
- 実物資料展示（解説パネルを併設）とする。
- モニターによる映像展示（天井裏の小屋組や増築の変遷を映像で解説）と音声ガイドを行う。
- 屋根裏に観覧者が操作可能なカメラを設置し、小屋組や耐震補強工事の様子を自由に見ることができる設備を設置する。

【展示イメージ】

- 主屋の変遷に関する展示

  明治6年(1873)から平成3年(1991)に保存修理が行われるまでの主屋の変遷については、平面図や写真・映像を使用して紹介。明治14年(1881)以前の小屋組みの痕跡が遺る小屋裏についても写真や映像で紹介する。小屋裏に観覧者が操作可能なカメラを設置し屋根裏を見られるようにする。

- 主屋の建築的価値

  駅逓所建物に見られる建築的価値について図面や写真を使用して紹介する。（駅逓所展示エリア部分についても、建築的価値に関することはここで紹介）

- 柾材や継ぎ手など建築材や建築技術

  柾材など実際に使用されていた建築材は展示ケースに入れて展示することを検討する。継手は現在の展示状況と同じように実際に触れるよう手に取りやすい場所に展示する。

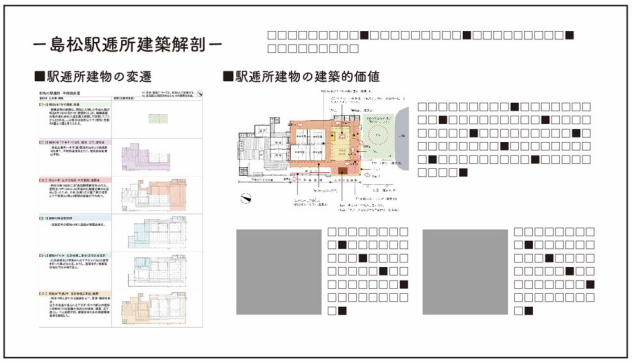


図 5-4-15
グラフィックパネルイメージ

写真 5-4-11
建築材の展示参考事例（札幌市旧三菱鉱業寮）

写真5-4-12
現在の展示状況（継手サンプル）

写真5-4-13
現在の小屋組

⑧ 宿場としての駅逓所（駅逓所展示エリア）

【主な展示内容】

- 宿場として使用されていた当時の様子を展示する。
- 帳簿や提供されていた食事の内容など駅逓所関連資料を展示する。

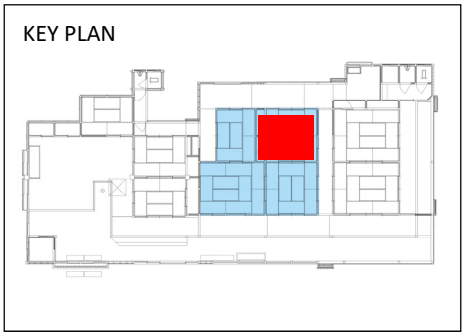


図5-4-16　⑧位置図

【展示の手法】

- グラフィックパネル展示（吊下げ式）とする。
- 実物資料展示（食品サンプルなど）とする。

【展示イメージ】

- 宿場としての様子を再現した展示を行う。
  当時の食事や料金等をパネルで展示する。食事は食品サンプルで再現して展示する。

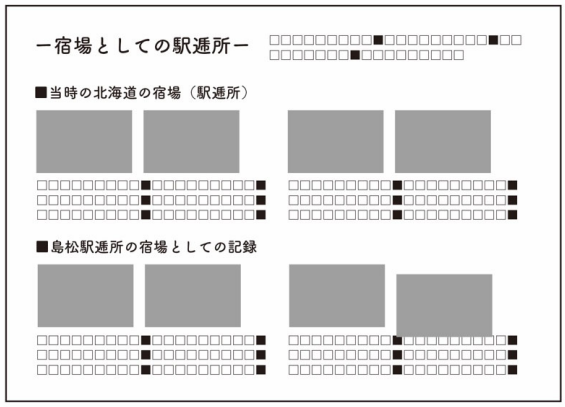


図 5-4-17
グラフィックパネルイメージ

写真 5-4-14
食事の様子の再現参考事例（札幌市 旧黒岩家住宅）

写真 5-4-15
当時の食事を再現（イメージ写真）

写真 5-4-16
現在の展示状況（床の間）

⑨ 明治天皇と行在所（行在所展示エリア）

【主な展示内容】

- 明治天皇の行在所となった島松駅逓所について展示する。
- 行在所神社となった歴史について展示する。

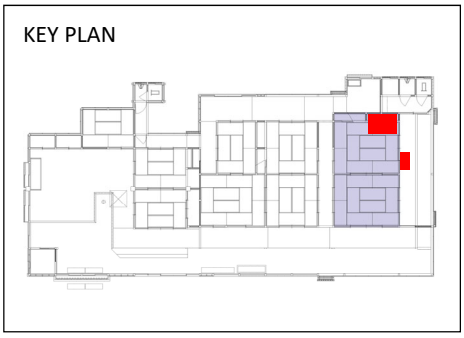


図5-4-18　⑨位置図

【展示の手法】

- グラフィックパネル展示（吊下げ式）とする。
- 実物資料展示等とする。

【展示イメージ】

- 明治天皇の行在所となった島松駅逓所に関する展示

明治14年(1881)の明治天皇北海道御巡幸の際に、島松駅逓所が島松御昼行在所に指定され、中山久蔵が建物を増築したことや、明治天皇巡幸の様子を解説パネルで紹介する。

御真影や行在所の看板、看板設置用の角材は現在の展示状況と同様に展示する。実際に使用されていた状況についても写真を用いて解説パネルで紹介する。明治天皇より下賜された銀杯も解説パネルで紹介する。

- 行在所神社となった歴史

明治天皇が昼食をとった行在所部分は、後に行在所神社が祀られ、鳥居などが設けられており、地域住民に開放されていた歴史について写真とともに紹介する。

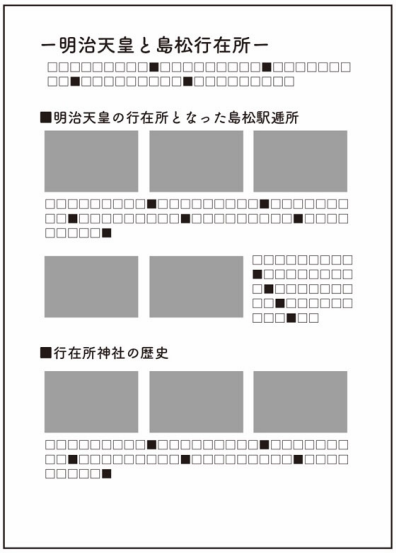
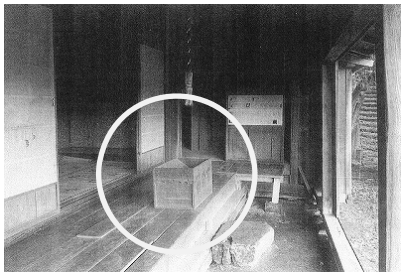


図 5-4-19
グラフィックパネルイメージ



・左上　写真5-4-17
神社鳥居（丸印部分）
・右上　写真5-4-18
賽銭箱（右上写真、丸印部分）
・左側　写真5-4-19
下賜された銀杯

写真 5-4-20
現在の展示状況（御真影）

写真5-4-21
現在の展示状況（木製看板）

写真5-4-22
現在の展示状況（看板用角材）

⑩ インフォメーションコーナー（導入エリア）

【主な機能】

- 旧島松駅逓所におけるイベント等について発信する。
- 北広島市の様々な情報について発信する。
- 道内に残る駅逓所や歴史的建造物の情報を発信する。

【活用方法】

- 様々な情報発信を行うスペースとして活用する。

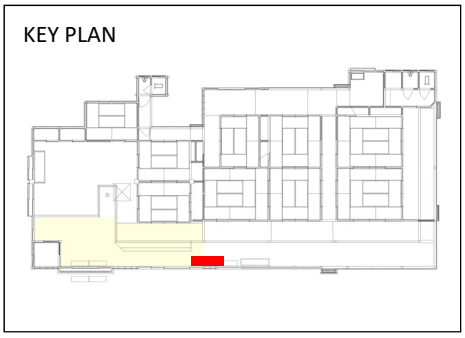


図5-4-20　⑩位置図

【掲示板イメージ】

- 軟石とアクリル板を用いた掲示板を設置する。

写真5-4-23
軟石の掲示板（イメージ写真）

⑪ 記念品販売コーナー（導入エリア）

【主な機能】

- 史跡を訪れた思い出や記念となるコーナーを設置する。

【活用方法】

- 記念スタンプを設置する。
- 軟石を加工した記念品の販売を検討する。
- 旧島松駅逓所ガイドブックを作成する。

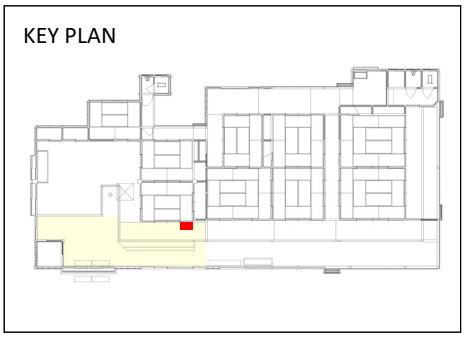


図5-4-21　⑪位置図

【什器イメージ】

- 旧島松駅逓所に用いられている木造の接合部（仕口）を採用した棚とする。

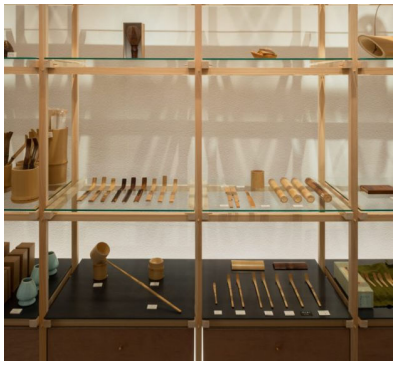


写真 5-4-24
木造の接合部（仕口）を採用した棚
（イメージ写真）

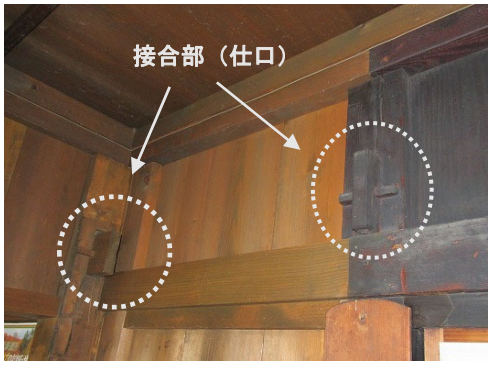


写真 5-4-25
旧島松駅逓所に見られる
木造の接合部（仕口）

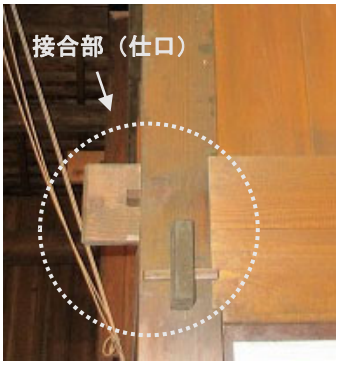


写真5-4-26
旧島松駅逓所に見られる
木造の接合部（仕口）

⑫ 主屋の建築的価値（全エリア共通）

【該当する部分】

- 座敷外周部の廊下（　　）

  中廊下型が多い駅逓所の間取りにあって、座敷外周部に廊下を配した駅逓所は希少である。

- ２本の柱（　　）

  増改築の痕跡が残されている２本の柱がある。

- 明り障子付板戸（　　）

  明治以前の伝統的建具の仕様である明り障子付板戸が用いられている。

- 土縁（　　）

  明治期の農家建築には希少な土縁がある。（土縁については、当時の活用方法等についても解説を加える。）

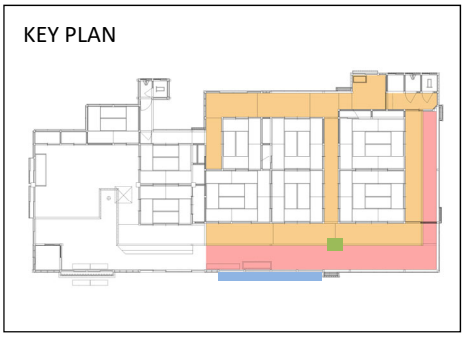


図5-4-22　⑫位置図

【展示の手法】

- 実物展示（解説パネルを併設）とする。

【展示イメージ】

- 建築的な価値については、該当する部分の近傍に解説パネルを設置する。

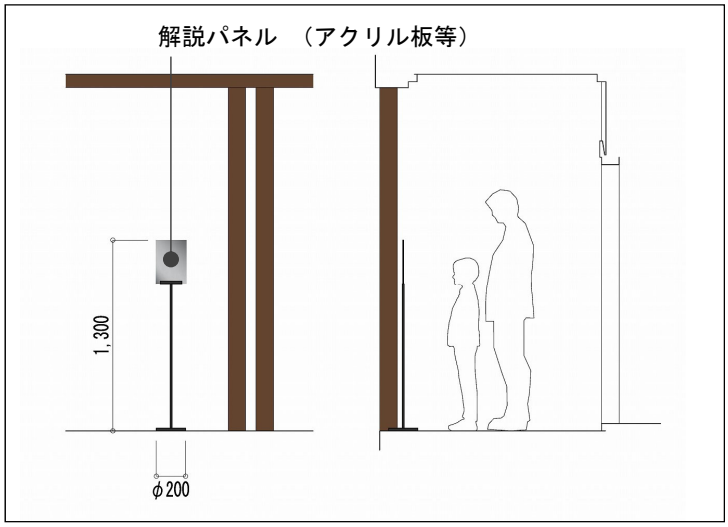


図5-4-23
解説パネルの設置イメージ

写真 5-4-27
現在の展示状況
（座敷外周部の廊下）

写真5-4-28
現在の展示状況
（増改築による２本の柱）

写真5-4-29
現在の展示状況
（明り障子付板戸）

（2） サイン基本設計

1）サイン設計方針

① 各種サインの形状や素材、色彩等について統一を図る。

② 史跡の持つ雰囲気や景観との調和に配慮したデザインとする。

2）サイン設計内容

① 史跡全体の案内板を設置する。案内板は、観覧の妨げにならないものを設置する。

② 必要な場所においては、順路を示すサインを新設する。

③ 主屋のサインは必要最小限とする。

3）サイン配置計画

主屋のサインについては、展示計画の内容に合わせ計画し、観覧者の順路や注意事項についての表示、建築の価値に関わる事項についての解説パネル等とする。

4）サイン仕様

主屋のサインについては、展示物や建物の価値となる部分等に影響を与えないよう、置き型タイプとする。また、観覧者の視線を遮ることがないよう、大きさについても考慮する。

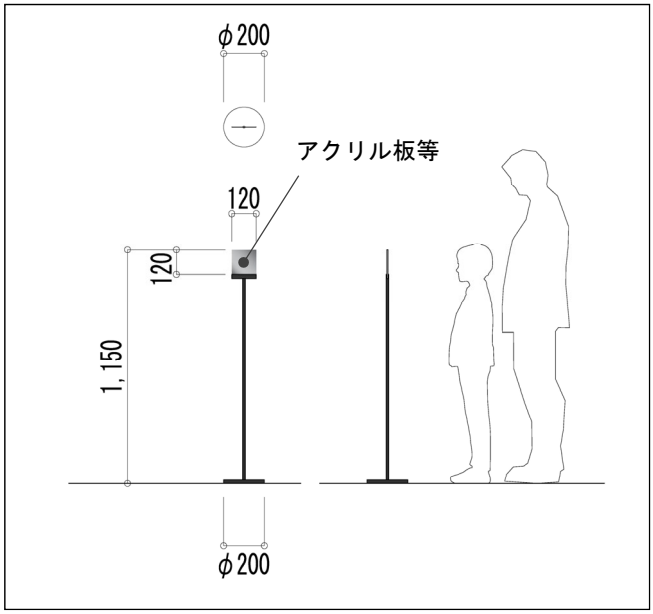


図5-4-24
サイン姿図

（3） 展示・サインリスト

表5-4-1　展示・サインリスト

エリア	展示概要	仕様	数量
展示関係	－	－	－
導入エリア	施設案内	・解説パネル：W1,730×H1,300	1
	インフォメーション コーナー	・掲示板 アクリル板：W450×H1,800 軟石架台：W450×D450×H450	3
	記念品販売コーナー	・展示棚：W900×D300×H1,800	1
中山久蔵 展示エリア	史跡全体の概要	・タッチパネルディスプレイ 映像：史跡の概要説明（10分以内） 多言語対応 ・スツール（軟石加工）	1 10
	中山久蔵の事績	・展示ケース：W1,800×D900×H1,000 ・キャプション（アクリル）	2 4
	中山久蔵の年譜	・グラフィックパネル：W2,000×H850	1
	中山久蔵の暮らし	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
駅逓所展示 エリア	駅逓制度と島松駅逓 所	・タッチパネルディスプレイ 映像内容 駅逓制度、島松駅逓所について、 耐震補強工事について（多言語対応）	2
	島松駅逓所建築解剖	・展示ケース：W1,800×D900×H1,000	1
		・展示台：W1,800×D900×H700 （仕口等を展示） ・解説パネル	1 1
		・小屋裏撮影用カメラ、カメラ操作設備 ・ディスプレイ ・小屋裏内部キャプション	1 1 10
	宿場としての駅逓所	・グラフィックパネル：Ａ０サイズ ・食品サンプル	1 4

行在所 エリア	明治天皇と行在所	・グラフィックパネル：Ａ０サイズ	1
建築的価値	座敷外周部の廊下	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
	増改築による２本の柱	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
	明り障子付き板戸	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
	土縁（土間）	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
その他	台所用具	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
	飼葉桶（かいばおけ）	・グラフィックパネル：Ａ３サイズ ・パネルスタンド	1 1
サイン関係	－	－	－
誘導サイン	順路	・ピクトグラム：アクリル板、120角 ・サインスタンド	6 6
立入禁止／ 禁止事項等	立入禁止	・ピクトグラム：アクリル板、120角 ・サインスタンド	5 5
	土足禁止	・ピクトグラム：アクリル板、120角 ・サインスタンド	1 1
	トイレ使用禁止	・ピクトグラム：アクリル板、120角 ・サインスタンド	1 1

パネル寸法や数量等は、今後の実施設計等により詳細を検討する。

６章　事業計画

１．事業工程及び概算費用

旧島松駅逓所保存活用計画、整備基本計画及び本基本設計に基づき駅逓所主屋エリアの整備に関する事業工程及び概算費用を下記に示す。

表 6-1-1　駅逓所主屋エリア事業工程及び概算費用

内　容	概算費用（千円）	令和５年度（2023）	令和６年度（2024）	令和７年度（2025）	令和８年度（2026）
①　実施設計	15,070	■			
②　耐震補強･保存修理工事	224,400	耐震補強・柾葺き屋根葺替え・造作材修理等	■	■	
③　電気設備改修工事	23,210	照明・コンセント・通信設備・火災報知設備改修等	■	■	
④　展示更新	33,000		展示ケース・サイン等更新	■	

※概算費用は税込み金額である。